



「笹川杯作文コンクール 2012」～日本語で応募～優秀賞作品

※日本語の原文を尊重し、一切手を加えておりません。

福島放射能漏出事故を経て—原子力発電に思うこと—

華中科技大学 張玉玲



去年3月11日の東日本大震災により、福島第一原子力発電所に爆発事故が発生した。この史上例を見ないほど大きな原発事故は悪影響をもたらして、広い範囲に、高い線量の放射能汚染が発生した。福島第一原発から半径20km圏内は一般市民の立入りが原則禁止されている。そして、その放射能汚染は風に乗って、ロシア、中国と台湾まで通過した。事故重大度としては、国際原子力事象評価度については最高レベル7と評価されている。つまり大変深刻な事故だったのだ。

つたのだ。

実に、今回の事故は福島原子力発電所で初めてのことでなく、人間の原子力発電の開始から、このような壊滅的 accident は発生しており、またこの事故は終わりでもない。

人間は自然を利用して、自然環境に住んでいる。自然に対抗する力というより、自然からの壊滅を防ぐことができる。今回の事故の発生は自然災害と人的原因とともに引き起ったものである。福島第一原子力発電所での設備や技術にも問題があった。今まで、世界各国に原子力エネルギーの利用は大いに発展している。これは持続可能な、清潔なエネルギーで、今それにとって代わるエネルギーの開発はまだはるか先だ。それと同時に、原子力エネルギーのもたらす損害も少なくない。人間と自然の関係は対抗と屈服の歴史だ。原子力エネルギーの利用を廃棄することは目下、できない。新しいエネルギーの開発には時間がある。防災思想を変えなければならない。それで、もっと人間の生活を守ることができる。